

本校は併設型中高一貫教育校15年目となり、6年間の富士の学びから、富士山の裾野のような幅広い教養と高度な「理数的発見力」「理数的解決力」を身に付けさせ、これらの力を活用して社会の課題を解決するために自己の限界（高峰）に挑戦できる人間を育成しています。世界に大志を抱く「富士山型探究者」すなわち、新たな価値を創造する科学的グローバルイノベーターとして世界で活躍できる人材の育成を目指す学校です。

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業は、令和3年度に文部科学省から指定を受け、今年度4年目を迎えました。研究開発課題は、「6年間を貫く課題研究『富士未来学』に挑戦する中高一貫理数教育カリキュラムの開発と評価」です。全富士体制（全教員・全生徒）で、課題研究に取り組み、①カリキュラムの研究開発②最先端の科学技術を学ぶ「富士SSHチャレンジプログラム」の研究開発③「富士未来学研修」の研究開発④各取組の成果を科学的・客観的に評価し、検証等を行っています。

また、令和5年10月の中間評価の結果は、「これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断される」という評価でした。特に「富士未来学のテキストが、各学年6学年分揃えられ、活用している。」「仮説検定をはじめ統計的な指導を数学や情報との連携を基に展開し、統計を課題研究に活用できている。」「理数セミナーやサイエンスアカデミーキャンプ、科学コンテストへの挑戦等、充実した活動ができています。」等、優れている評価を受けました。さらに改善点は、「全国の中学校・高校へ還元できる取組が期待される。」「育成したい生徒像を明確にして、全教員が指導する組織づくりが望まれる。」「生徒が希望する進路や興味ある内容と関連した機関との外部連携を図る。」等の指導・助言でした。

今年度は、中間評価の結果を踏まえて、課題を改善し、事業をさらに発展させ、高度な課題研究に取り組み、国際科学オリンピック等に挑戦する生徒を育成する事業「富士SSHチャレンジプログラム」を開発しています。

令和7年度5年目は、第Ⅰ期目の5年間の事業を総括するとともに第Ⅱ期の申請に向けて、新たな事業を検討し、研究開発の計画を立案していきます。

最後に本事業を実施するにあたり、多大なる御指導、御鞭撻をいただきました文部科学省、国立研究開発法人科学技術振興機構、東京都教育委員会、運営指導委員会、関係大学及び関係企業の方々をはじめ保護者の皆様、多くの関係者の皆様に心より感謝申し上げます。また、次年度以降からの研究開発につきまして、さらなる御指導や御協力を賜りますようお願い申し上げます。

● 目次

巻頭言	1
目次	1
❶令和6年度スーパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告（要約）	2
❷関係資料	
1 SSH運営指導委員会記録	12
2 SSH事業に関する質問紙調査の結果	18
3 生徒が取り組んだ研究課題一覧	19
4 ルーブリックとテキストの例	20
5 教育課程表	24
6 SSH概念図	26
7 SSH通信	27
おわりに	30

● おわりに

教務情報部主任 探究・SSH部主任 IR評価委員 鳥谷部 光

本校のSSH事業は、富士高生が卒業し、15年後の世界で活躍する姿を想像しながら設計しました。当たり前のことが当たり前ではなくなる変化の激しい時代を生き抜き、世界に貢献する新たな価値を生み出していく姿を想像しながら、どのような資質・能力を育成すれば良いかを考えることは、とても難しい課題でした。度重なる議論の結果、育成すべき資質・能力として、理科と数学の見方・考え方を働かせて課題を発見する力である「理数的発見力」、発見した課題を理科と数学の見方・考え方を働かせて解決する力である「理数的解決力」、そしてそれらの力を働かせるための「挑戦力」が抽出されました。本校のSSH事業は、これら3つの資質・能力を兼ね備えた、新たな価値を創造する科学的グローバルイノベーターである「富士山型探究者」を輩出するための事業です。本校の卒業生が「富士山型探究者」となって、世界のあらゆる分野に挑戦し活躍することを願っています。

探究・SSH部 近内 崇志

本校で実施する理数セミナーや高大連携授業、中学生の理数のイベントにおいては、多くの外部の講師の方に御支援をいただいております。関係の皆様には改めてこの場をお借りして、厚く御礼申し上げます。最先端の科学技術や研究に触れることは、本校の生徒にとって、とても刺激的で、学びのモチベーションに繋がっております。生徒たちが意欲的に研究に取り組み、試行錯誤していくことは今後の人生においても必要な経験であると考えております。研究を進めていく中で困難に直面した際に、支えることができるように引き続き全力でサポートをしていきます。来年度はSSH事業第I期の5年目を迎えます。生徒にとってより良いものとしていければと思います。

教務情報部 IR評価委員 高山 愛

近年の科学技術の発展により、生徒たちを取り巻く環境も目まぐるしく変化しています。そんな変化の激しい時代であるからこそ、経験や知識を活用して、未知の課題にも根気強く対応できる能力を育てていきたいと、私たち教員は考えております。SSH事業として4年目を迎えた富士未来学ですが、堂々と発表する生徒の姿には、頼もしさを感じるようになりました。上級生という良いお手本が身近にすることで、彼らに憧れている下級生たちが飛躍的に成長していくようです。更に、今年は富士未来学の授業を受けた卒業生たちが、自らの経験を基に後輩の指導にあたる様子も見られました。富士での学びが循環して、生徒たちの力でより魅力的な活動になっていくことを望んでいます。

六年間という短いけれど貴重な学校生活の中で、多くのことを考え、多くの体験をして、多くの人々と関わってもらえるようなカリキュラムを作成してきました。生徒たちの未来が幸せなものとなるように、学校全体で支援したいと思っております。

最後になりましたが、本校の探究活動にあたり、貴重なご指導やご助言を賜りました教育関係の皆様、ご理解を頂き協力してくださった保護者の皆様には、厚く御礼を申し上げます。

令和6年度東京都立富士高等学校

スーパーサイエンスハイスクール（SSH） 研究開発報告書 第4年次

令和7年3月発行

発行者 東京都立富士高等学校

東京都立富士高等学校附属中学校

探究・SSH部、IR評価委員会編

住 所 〒164-0013 東京都中野区弥生町5-21-1

電話：03-3382-0601

